

昭和 61 年度雪氷災害の概要

北大低温研 清水 弘・秋田谷英次

日勝峠雪崩事故 (昭 62・1・29)

昭和 62 年 1 月 29 日午前 10 時 57 分ごろ, 国道 274 号線日勝トンネルの十勝側出口の上部斜面で面発生乾雪表層雪崩が発生した。この斜面は, 斜面長約 150 m, 平均傾斜 35 度の, 白樺疎林が散在する南東斜面であり, 雪崩は中央部の無立木沢型地型を落下した。当日は殆んど無風の晴天で, 気温は -6°C 位であった。この雪崩は, 質量階級 $M. M.=2.5$, ポテンシャル階級 $P. M.=5.7$ 程度の, 小型に属するものである。

当時, NTT, 北海道電気保安協会, 牧野電気KKなどの職員 10 名が雪崩地域内で作業中だったため, 即死 1, 重傷 2, 軽傷 4 の人身事故が発生し, 小型自動車 2 台が中程度の損傷を受けた。また, デブリ (堆雪) はトンネル出口から約 60 m に亘って国道を数十 cm の厚さで埋めたため, 一時的に車輛通行不能になった。

今回の雪崩発生 of 直接原因 (trigger) は断定し難いが, 附近の表層積雪内の “しもぎらの雪弱層” の存在とその上載荷重, および雪崩発生前後状況から自然発生の可能性が強い。同所では, 昭和 56 年 3 月 3 日に, 自然発生による面発生乾雪表層雪崩 (無事故) が観察されている。

幌加内雪崩事故 (昭 62・3・6)

昭和 62 年 3 月 6 日午後 0 時 30 分ごろ, 雨竜郡幌加内町字添牛内国道 239 号線の北側山地の南斜面の無立木地で, 面発生乾雪表層雪崩が発生した。発生当時の天気は吹雪であった。雪崩は, 質量階級 $M. M.=1.0$, ポテンシャル階級 $P. M.=3.2$ 程度の小規模のものであった。

この時, 雪崩発生斜面を登高中だった道警旭川方面通信部技官 3 名がこの雪崩にまきこまれたが, 2 名は自力で脱出し, 1 名は 1 時間後に救出され, 負傷者はなかった。

同地域の表層積雪 (約 50 cm 厚) 内に, 4 枚の弱層が観察されたが, この雪崩が自然発生のものだったか, 3 名の行動が誘発したものかは, 不明である。